長野保健所管内感染症情報（号外）

令和７年５月１日

百日咳の届出状況について（4 月 30 日現在）

長野保健所管内における百日咳患者の届出数は、過去５年で１例のみの低い水準でしたが、4月 11 日から4月 30 日までの間に 13 例の届出があり、県内及び国内でも患者が増加しております。

咳などの症状がある方は早めに医療機関を受診されるとともに、マスクをつけ、咳エチケットを守りましょう。

○百日咳ってどんな病気？

- 百日咳は、百日咳菌による感染症です。
- 咳やくしゃみに含まれる菌によって感染します（飛沫感染）。
- 激しい咳をともなう病気で、１歳以下の乳児、特に生後６か月以下の子供では無呼吸発作など、重症化することがあります。（死亡例もあります。）
- 年長児や成人では、比較的軽い症状で経過することも多く、受診・診断が遅れ、感染源となることがあります。乳児の周りでは特に注意が必要です。
- 治療には抗生剤の投与がおこなわれます。

○症状は？

- 普通のかぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなります。
- その後、特徴のある発作性けいれん性の咳（痙咳）となります。また咳とともに嘔吐を伴うこともあります。
- ２～３週間で激しい発作は次第に治まりますが、まれに忘れた頃に発作性の咳が出ることがあります。

○予防するには？

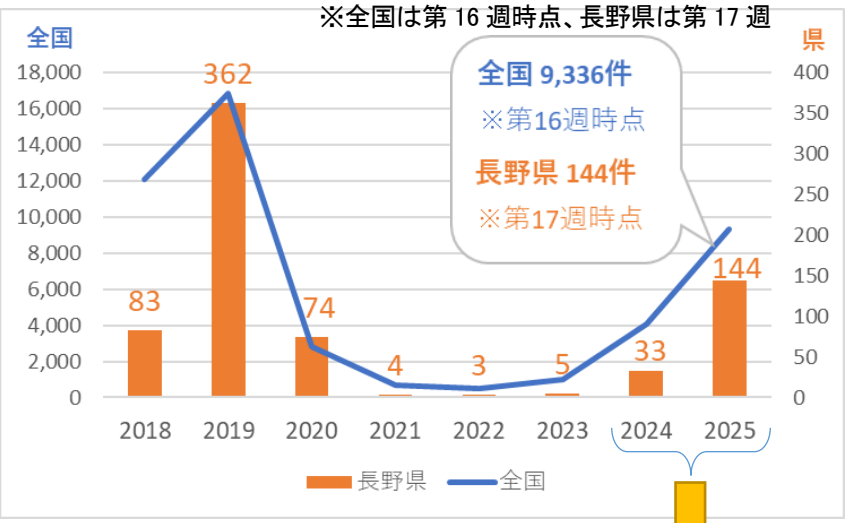
- 手洗い、マスクの着用、咳エチケット等の基本的な感染対策が重要です。
- 百日咳の予防には**予防接種**　（５種混合ワクチン等）が有効です。
- 生後２か月から予防接種法に基づく定期接種を受けることができるため、できるだけ早く、計画的に接種しましょう。

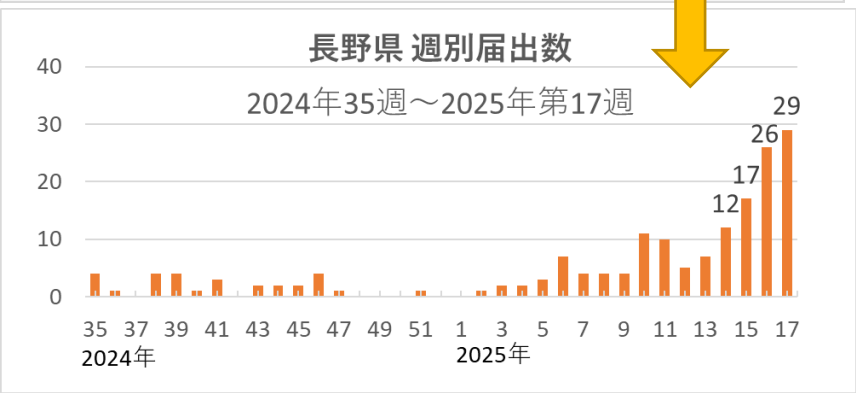
長野保健所管内感染症情報（号外）

令和７年５月１日

○百日咳の届出数の推移

長野県及び全国の百日咳報告数（2018 年～2025 年※）



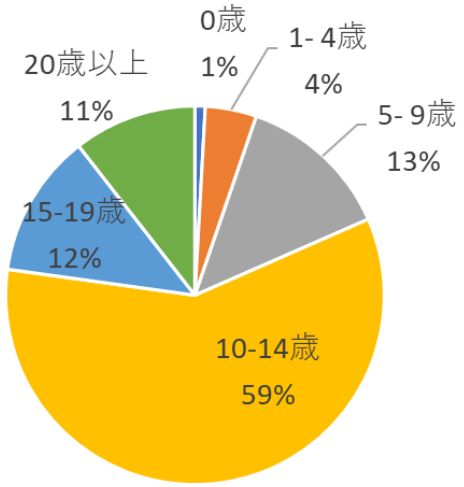


- 百日咳は2018年から全数把握対象となり、全国と長野県ともに、2019年をピークとし、その後は、新型コロナウイルス感染症の流行もあり、報告数が激減していました。

- 県内の2024年の届出数は33件でしたが、2025年は第17週時点で144件と、すでに昨年の４倍以上に増加しています。特に 2025年 14 週から急増しており、直近の第 17 週(4 月 21 日～4 月 27 日)の報告数は、29 例でした。

（速報のため、今後の集計で変更が生じることがあります。）

○最近の百日咳症例の特徴



長野県内の百日咳症例 年齢分布
（2025 年第 1 週～第 16 週、n=114）

- 長野県内で 2025 年第 1 週から 16 週までに報告のあった症例の年代は、10～14 歳が全体の59％と最も多く、次いで5～9歳が 13%、15～19 歳が 12%でした。乳児期の定期接種の効果の持続は5～10 年程度と言われていますので、基礎免疫の低下が原因の一つと推測されます。

- 学校などの集団生活の場で発生しやすいため、今後、さらなる増加が懸念されます。

参考資料

- 長野県感染症情報（長野県ホームページ）
  https://www.pref.nagano.lg.jp/shippei-kansen/kenko/kenko/kansensho/joho/index.html
- 百日咳の発生状況について（国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト）
  https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ha/pertussis/020/250422_JIHS_pertussis.pdf